



# センターだより

愛知県勤労者安全衛生研究センター  
〒456-0002  
名古屋市熱田区金山町1丁目14-18  
ワークライフプラザれあろ3F  
TEL(052)684-0003  
FAX(052)684-0303  
連合愛知ホームページからも閲覧できます  
<http://www.rengo-aichi.or.jp>

## 第29回総会について確認 ～安全衛生センター第4回理事会～

11月7日、連合愛知安全衛生センター「第4回理事会」を開催した。理事長を始め多くの役員が交代し、新たな体制での理事会となった。

冒頭、新たに就任した可知理事長から、「労働災害をなくすためにはたゆまぬ努力が必要。安全対策の取り組みは、風土づくり、人づくりそのものである、それぞれの組合での積極的な取り組みをお願いしたい」と挨拶があった。



理事会の主な内容は次のとおりである。

7～9月の活動報告の後、確認事項①三役および会計監査の交代 ②理事の交代 ③愛知労働局安全衛生労使専門家会議委員の変更 ④当面の日程について提案・確認した。

### ◇三役および会計監査の交代

役職	新役員	構成組織	旧役員
理事長	可知 洋二	電機連合	持田 和之
副理事長	近藤 之	基幹労連	可知 洋二
事務局長	浜 博幸	連合愛知	酒井 清明
会計監査	小松 昌亀	自動車総連	谷川 文朗

### ◇理事の交代

構成組織	新理事	旧理事
自動車総連	鈴木 雅也	影山 純一
電機連合	切久保 誠一	田中 敏明
電力総連	横原 宏治	朝倉 紀和
J R 連合	鎌田 隆司	猿渡 桂一

議事については、①「第29回総会」の開催（2017年度活動報告と決算報告、平成28年度労働保険事務組合関係報告、2018年度活動計画（案）・予算（案）・役員（案））②2018年度暫定予算 ③「2017世界エイズデーフォーラム」の開催 ④連合愛知労災保険組合の変更事項 ⑤「第1回理事会」の開催について提案し、すべて承認された。最後に、中災防ゼロ災センターの助言を受け、紆余曲折しながら風通しの良い安全な職場風土へと変わっていく軌跡を追ったDVD「安全先取りの企業風土をつくる」を鑑賞した。

労働安全衛生に関するDVDを無料で貸出ししています。希望する場合は、安全衛生センターにご連絡を！

## 12月1日～31日は 職場の年末安全衛生推進運動実施期間

無災害 みんなで迎える 明るい新年



年の瀬を迎える慌ただしさのなか、不幸な労働災害によって、働く仲間が誰一人けがすることなく、明るく新年を迎えられるよう、論理的な安全衛生管理の推進と定着による労働災害の防止に向けた取り組みをお願いします。

職場の年末安全衛生推進運動  
愛知労働局・管下労働基準監督署

### 全業種の事業場で取り組む事項

- ① 経営トップが安全衛生管理方針の決意を表明し、運動期間中に職場巡視を行って、労働者の安全意識の高揚を図る。
- ② 設備・機械等の危険源の性質ごとに、リスクアセスメント手法を用いて安全衛生対策が適切に講じられているか確認し、より安全な対策を検討する。
- ③ 「故障中」「要修理」などの表示のまま放置された設備や仮囲いなどの応急対策の箇所への、適切な恒久的安全衛生対策を実施する。
- ④ 使用している化学物質の安全性データシート（SDS）を利用し、安全な取扱方法及び異常時の対処方法などの教育、保護具の点検などの安全衛生管理を実施する。
- ⑤ 各労働者が安全衛生作業マニュアルを再読し、再確認にすることによって、安全作業手順を順守する。
- ⑥ 積雪・道路凍結などへの対応として、靴の滑り止め、冬用タイヤへの換装、チェーンの準備を行っておく。
- ⑦ 腰痛予防、過重労働防止、メンタルヘルス対策などを推進する。

## 安全衛生クイズ

基本編 7

衛生管理者は、少なくとも【 】作業場等を巡視しなければならない。

- ア. 毎日1回
- イ. 毎週1回
- ウ. 毎月1回

（労働調査会「労働安全衛生広報（別冊）」より）  
※答えと解説は裏面



## 第76回全国産業安全衛生大会 IN 神戸

11月8日～10日の3日間、全国産業安全衛生大会が神戸国際展示場をはじめ、多くの分科会会場で開催され、事業場の経営や安全衛生、環境保安、防災・危機管理などに携わる12,200名が参加した。

1日目の総合集会では、「第12次労働災害防止計画」の最終年度に当たり、経営トップの強いリーダーシップのもと、安全と健康を守る現場力を強化させ、すべての関係者が一丸となって労働災害防止対策に取り組むことを、大会宣言として全員で確認した。



分科会では、事業場からの安全衛生に関する取り組み事例報告、専門家からの特別報告、パネルディスカッションなどがあり、近年課題となっている過重労働や若年層などへの安全衛生教育、ストレスチェック制度の活用などの報告には、多くの関心が集まっていた。

また、同時に開催された「緑十字展」では、最新の安全衛生保護具や機器、健康づくりに関する機器などが多数展示され、多くの関係者で賑わっていた。

今大会に参加した安全衛生センター理事会の役員からの報告は、次号以降で紹介していく。



## 全国労働衛生週間にむけて ～第2回安全衛生担当者研修会を開催～

9月22日、れあろ6階大会議室において「第2回安全衛生担当者研修会」を開催し、構成組織・加盟組合・安全衛生センター役員から68名が参加した。

今回は近年の課題に着目し、3つの講座を行った。

一つ目は働き方改革の柱の一つである「治療と仕事の両立支援」の意義と課題について、ブリッジ代表の服部文氏からわかりやすく説明いただき、多様性実現の一つとして治療と職業を両立していける制度づくりや、個人と組織の関係性を紡ぐルールづくりが必要であることを学んだ。



服部文氏  
ブリッジ代表  
（安全衛生センター）



▲作氏によるアクティブ体操の取り組み紹介

## 死亡災害が増加！ 職場での安全衛生活動の総点検を！

愛知労働局が公表した平成29年の労働災害発生状況によると、死亡者数は33人（11月6日現在速報値）、休業4日以上死傷者数は4,893人（10月末現在）と、残念ながら増加している。

### 《平成29年災害発生状況》

- ◆死亡者数…33人（11月6日現在）  
対前年同期比17.9%増
- ◆死傷者数…4,893人（10月末現在）  
対前年同期比5.4%増

平成29年度は「第12次労働災害防止計画」の最終年度であり、この状況を踏まえると相当の危機感を持って労働災害防止対策に取り組む必要がある。

死亡災害を個別にみると、基本的な安全管理の取り組みが徹底されていないことによるものが多数みられ、人手不足が顕在化するなか、安全衛生管理体制がおろそかになっている状況が懸念される。



それぞれの職場においては、年末に向けて、労使と関係者が一体となって、原点に立ち返った安全衛生活動を今一度総点検し、労働災害を撲滅するべく取り組んでほしい。

二つ目は、JFEスチール株式会社西日本製鉄所倉敷安全衛生室ヘルスサポートセンターから乍智之氏を招き、労災防止のために独自開発した安全体力機能テストと職場体操「アクティブ体操」の取り組みを紹介いただき、参加者も一部体験した。転倒災害と体力の低下という視点での先進的な取り組みで、中高年齢労働者の転倒災害も減少している好事例を学んだ。

三つ目は、愛知工科大学名誉教授の小塚一宏氏から、「歩きスマホの危険性」について、貴重な実証実験をもとに講演いただいた。私たちの生活になくはないスマホだが、被害者にも加害者にもなり、最悪の場合、人を死なせてしまうかもしれない危険性があるので、それぞれの組合員に、機会を捉えて注意喚起をお願いしたい。



小塚一宏氏  
愛知工科大学  
名誉教授 特任教授

最後に、参加者の共通理解を深めるとともに、それぞれの組合活動に活かしていただくことをお願いし、研修を終えた。

### 安全衛生クイズ基本編 ⑦

#### 【答え】イ

<労働安全衛生規則第11条第1項>

「衛生管理者は、少なくとも毎週1回作業場等を巡視し、設備、作業方法又は衛生状態に有害のおそれがあるときは、直ちに、労働者の健康障害を防止するため必要な措置を講じなければならない」と定められています。